



2003年4月25日公表

各位

財団法人社会経済生産性本部
会長代行 渡里 杉一郎

第14回 2003年度新入社員 意識調査 (要旨)

拝啓 春暖の候、ますますご清祥の趣、お慶び申し上げます。平素より当本部の諸活動におきましては、格別のご高配を賜り、厚くお礼申し上げます。

さて、当本部では、本年も「若者意識アンケート」を実施し、集計分析を致しました。当調査は、1990年より新入社員の意識を見るべく、継続的に行っているものです。

つきましては、別紙の通り、本調査の要旨をご報告申し上げます。次世代を担う若手従業員についての情報として、ご活用頂けますれば幸甚に存じます。 敬 具

記

主要調査結果 ;

能力主義的な給与体系や昇格を肯定する意見が約7割を占める。反面、昨年に比べ、年功的な給与体系や昇格を望む意見も増加した。また、残業が少なく、自分の趣味などに時間が使える職場を望む声も高水準にある。

「転職否定派」、「今の会社に一生勤務する」が、過去最高。(本調査開始以来)就職先を決めた理由を「仕事のやりがい」とする意見が7割を超えるなか、「給料」とする回答が半減、「通勤の便利さ」が倍増。

職場より友人とのつきあいを優先する回答が5年ぶりに上昇。

内定の出た時期は、2002年夏がピーク。2002年春～秋合計で80%。

独立起業意識弱く、外資系や海外等の職場での就業意識も減少。

中堅・中小企業での大学院卒採用が増加傾向。(属性データ)

2. 調査方法 ;

2003年3～4月に実施した、財団法人社会経済生産性本部(会長代行 渡里杉一郎)主催の新入社員研修受講者に「若者意識アンケート」を配布し、745通の有効回答を得た。(回収率 100%) 各設問の未回答者分は、削除してあります。

3. 添付書類 ;

本調査結果要旨(本紙含め6枚) 本年度の主だった調査結果をまとめております。

集計表(10枚) 全ての設問のデータを掲載しております。

属性(1枚) 調査対象者の属性(性別、年齢、など)を掲載しております。計17枚

以上

調査担当 ; 経営革新部 岩井 茂

〒150-8307 東京都渋谷区渋谷3-1-1 TEL:03-3409-1118 FAX:03-5485-7750

第14回 2003年 新入社員 意識調査 要旨

詳細は添付の「集計表」(全結果掲載)をご覧ください。ページ数は「集計表」のページ番号となっております。

1. 能力主義志向の給与体系・昇格は高水準にあり、能力や実績が給与や昇格に反映されるシステムを望む声強い反面、年功的なシステムを希望する声も増加した。労働時間や残業に関する意識では自分の趣味に使う時間、自分の裁量の多いシステムを支持する回答が増加。
アフター5での職場のつきあいよりも、友人とのつきあいを優先する回答が増加。

「各人の業績や能力が大きく影響する給与システム」を望む者は減少したものの高い支持を得ている。
68.0%(2002年比 -5.3ポイント)(P3 Q6(d))

反面、「業績や能力よりも、年齢・経験を重視して給与があがるシステム」を望む者も増加。
32.0%(2002年比 +5.3ポイント)(同上)

「仕事を通して発揮した能力をもとにして評価が決まり、同期入社でも昇格に差が付くような職場」を望む者も高水準だが減少。

70.4%(2002年比 -4.2ポイント)(P4 Q6(h))

反面、「年齢や経験によって、平均的に昇格していく職場」を望む者は増加。

29.6%(2002年比 +4.2ポイント)(P4 Q6(h))

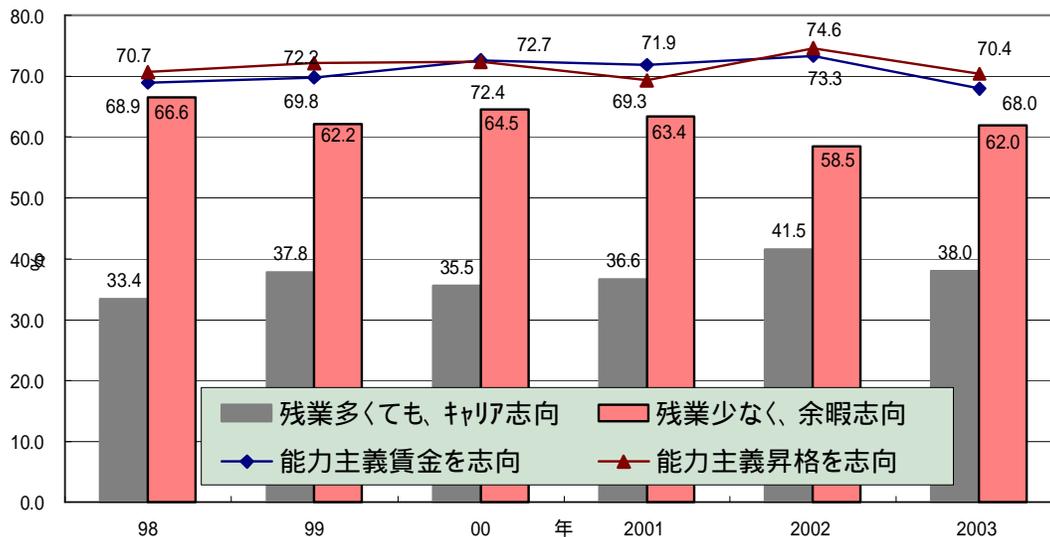
「残業は多いが、仕事を通じて自分のキャリア、専門能力が高められる職場」を望む者も減少。

38.0%(2002年比 -3.5ポイント)(P3 Q6(e))

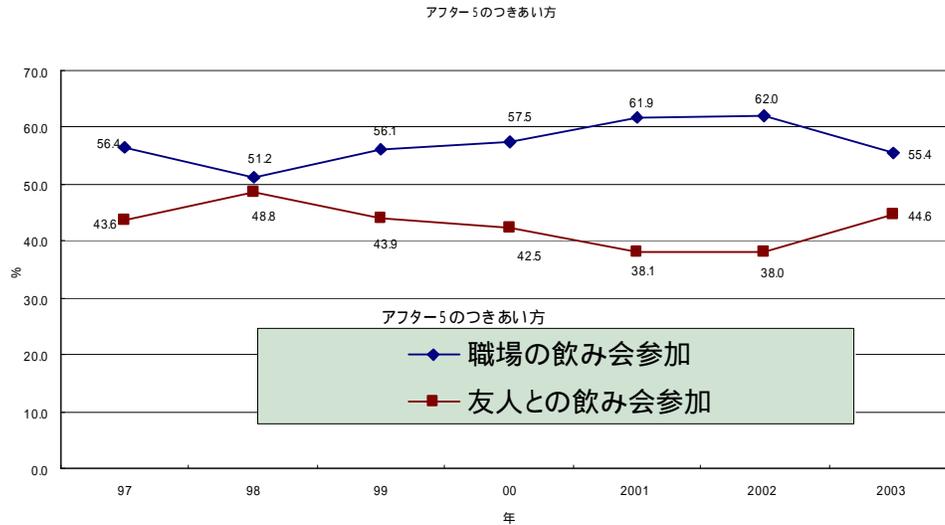
反面、「残業が少なく、平日でも自分の時間を持って、趣味などに時間が使える職場」を望む者は増加。
62.0%(2002年比 +3.5ポイント)(P3 Q6(e))

処遇(賃金と昇格)

処遇(賃金・昇格)およびキャリアと余暇の関係

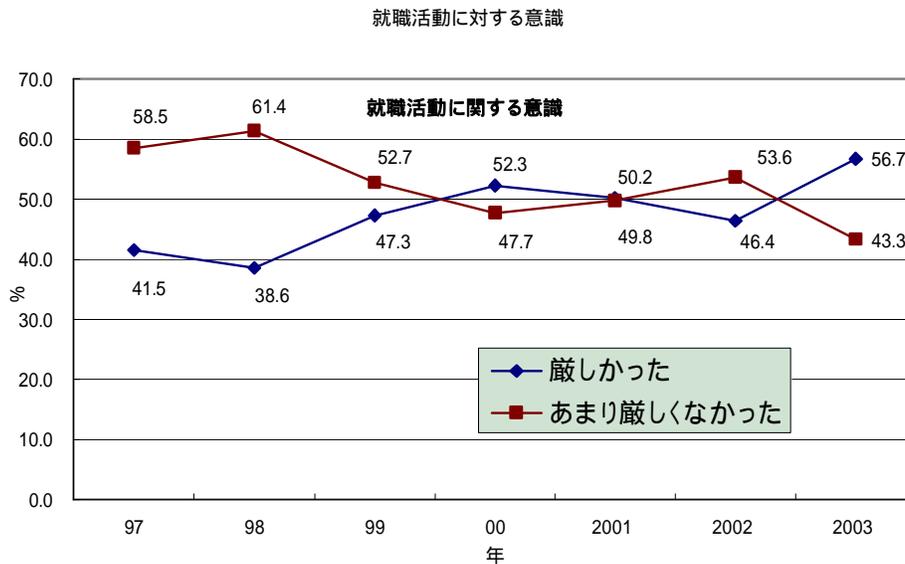


「職場の人たちで飲みに行くことになりました。・・・友人との飲み会を優先する」とする者が5年ぶりに増加。 44.6% (2002年比 +6.6ポイント) (P1 Q5(c))



2. 「就職活動が厳しかった」とする回答が急増し、「条件良くても転職しない」、「今の会社に一生勤める」とする意見の増加との関連が伺える。
「就職活動を始めた時期」は、2002年春が最も多く、「内定の出た時期」は、2002年夏が最も多い。

「就職活動は、思っていた以上に厳しかった」とする者が、増加。(過去最高)
56.7% (2002年比 +10.3ポイント) (P9Q10(a))

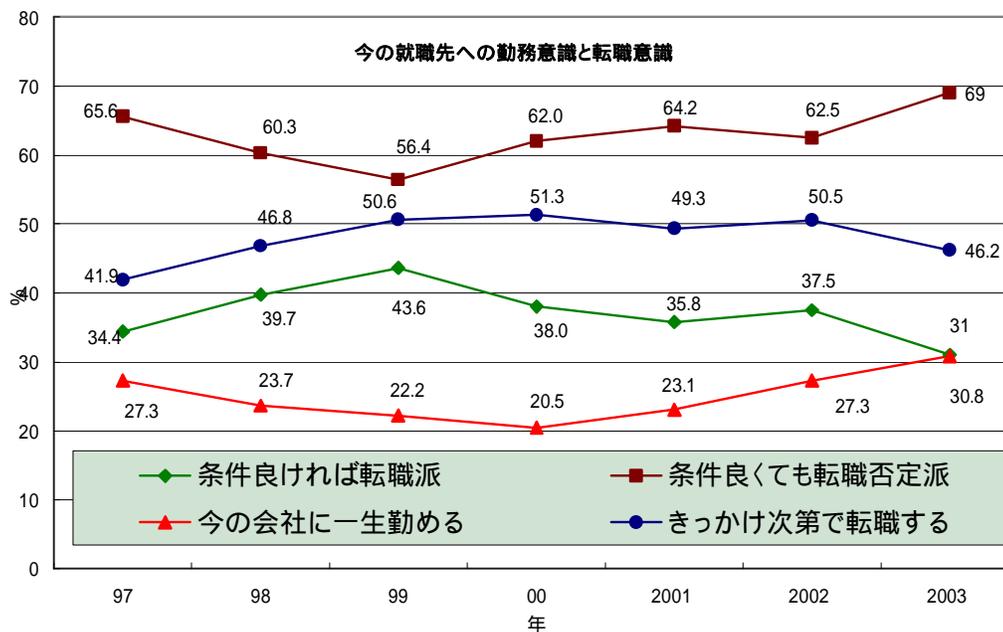


「条件の良い会社があれば、さっさと映る方が得だ」に対して、「そう思わない」とする者が急増（過去最高） 69.0%（2002年比 +6.5ポイント）(P5 Q7(e))

「今の会社に一生勤めようと思っている」者が増加。

30.8%（2002年比 +3.5ポイント）(P8 Q9(c))

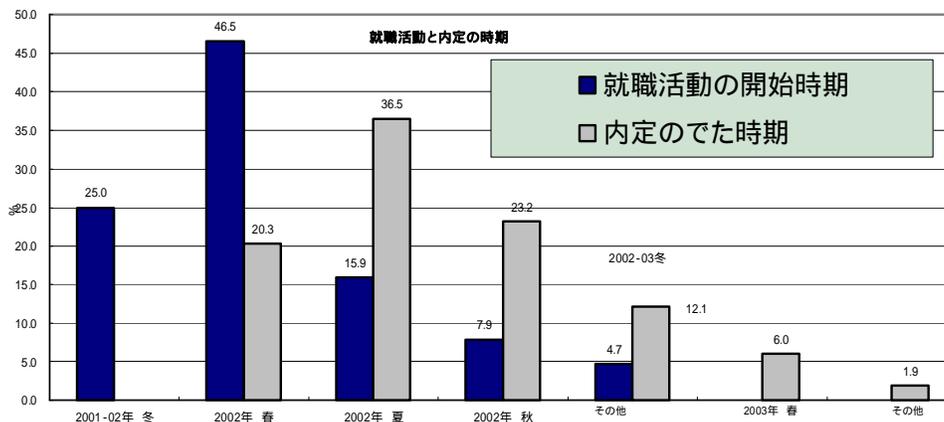
転職意識



「就職活動を始めた時期」は1年前（2002年春）が最も多く、1年以上前（2001～02冬）と合わせると71.5%になる。(P9 Q10(b))

「内定の出た時期」は2002年夏が最も多いが、2002年春と2002年秋も20%を超え、2002年春～秋を合わせると80%になる。(P10 Q10(e))

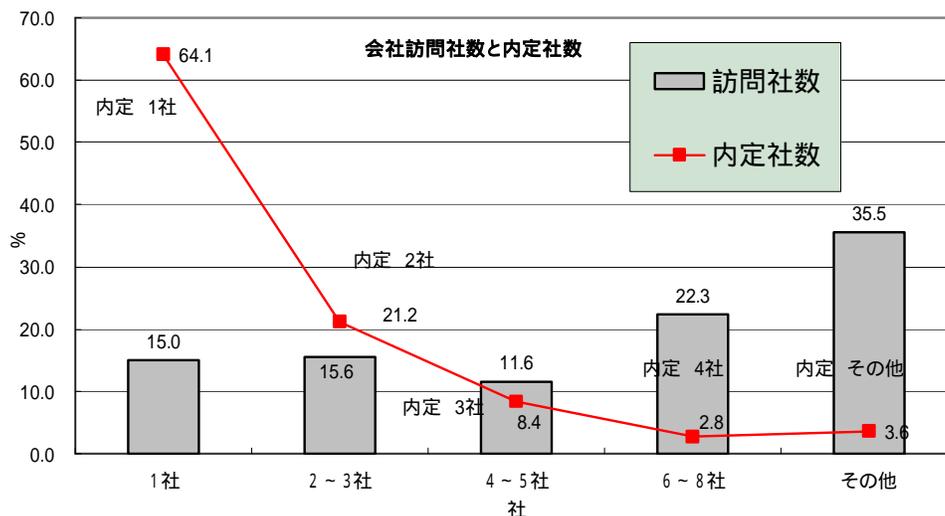
就職活動



就職活動で「訪問した会社数」は、6社以上が22.3%に対して、内定社数は1社が64.1%となっており、「厳しい就職活動」であったことが伺える。

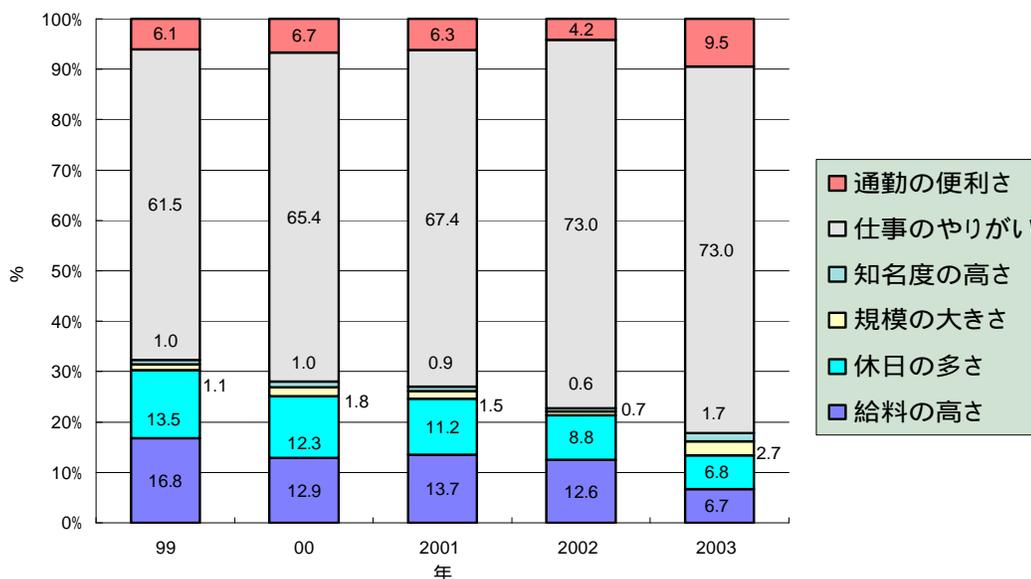
(P9 Q10(c)およびQ10(d))

訪問社数と内定社数



「就職先選びに際し、会社に対して求めたことの優先順位」は、「仕事のやりがい」が73%で例年通り圧倒的に高いが、「給料をたくさんもらえること」を第1位に回答した者が6.7%と半減(2002年比 -5.9ポイント)し、「通勤に便利なこと」が9.5%と倍増(2002年比 +5.3ポイント)した。(P10 Q10(g))

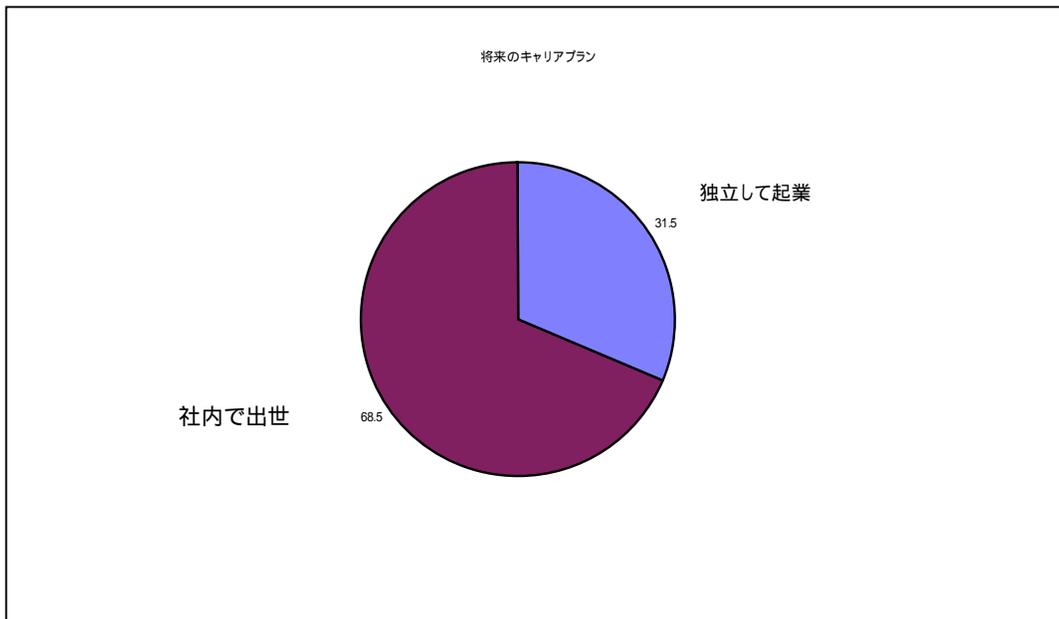
就職先選択の基準



3. 「将来への自分のキャリアプランを考える上では、社内で出世するより、自分で起業したい」とする者、「海外で働きたい。もしくは日本人以外の人も多い職場で働きたい」とする者は少なく、保守的な傾向が伺える。

「将来への自分のキャリアプランを考える上では、社内で出世するより、自分で起業したい」とする者 31.5% (今回初調査 P6 Q7(i))

「海外で働きたい。もしくは日本人以外の人も多い職場で働きたい」とする者 45.7% (2002年比 -2.8ポイント、調査開始以来最低) (P6 Q7(j))



起業精神と異文化

